

## 実践報告

### 教員免許更新講習実践報告 — 専門科目バレーボール —

### The teacher's license update lecture practice report — The special subject volleyball —

杉山 仁志  
Hitoshi Sugiyama

#### Abstract

A teacher's license update system was introduced from 2009 April 1st by the formation of the revision teacher's license law in June, 2007.

There was request from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and the Saitama Prefecture school board, too, in the science and it implemented a teacher's license update lecture with twice the year before last and in the current year.

In the this report, it implements a questionnaire survey for the volleyball which was implemented as the special subject from the inside at the update lecture which was set about this year ( 2011 ) science.

It had a purpose of getting a necessary data from the result in the future of implementing a lecture when. In the future, it thinks that the things such as " making an attendance object clear " become necessary with the step of whether or not " to examine contents " or the participant recruitment.

キーワード：教員免許、更新講習、バレーボール

Key words : Teacher's license, update lecture, volleyball

## I はじめに

平成 19 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により平成 21 年 4 月 1 日から教員免許更新制が導入された。

教員免許更新講習は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得ることを目的としている。

基本的な制度設計は、終了確認期限前の 2 年間に大学などが開設する 30 時間の免許状更新講習を受講・修了した後、免許管理者に申請して終了確認を受けることが必要となる。

更新講習の受講対象者は、現職教員・教員採用内定者・臨時任用（または非常勤）教員リストに登録されている者・過去に教員として勤務した経験のある者などである。

更新講習を開設できるのは、大学・指定教員養成機関・都道府県教育委員会などであり、担当することが出来る講師は、大学の教授・准教授・講師または、教育委員会の指導主事などである。

更新講習の内容は、教育の最新事項に関する事項（12 時間以上）と教科指導、生徒指導その他の教育の充実に関する事項（18 時間以上）であり、受講者の専門や課題意識に応じて、開設する講習の中から選択することとなっている。<sup>1)</sup>

武蔵丘短期大学（以下「本学」とする）では、文部科学省及び埼玉県教育委員会からの依頼もあり、一昨年と本年の 2 回教員免許更新講習を実施した。

本報告では、今年度（平成 23 年度）本学において設定した更新講習の中から、専門科目として実施したバレーボールを対象とし、更新講習終了後、受講者にアンケート調査を実施した。

その結果から今後講習を実施していくに当たり必要な資料を得ることを目的とした。

## II 調査方法

### 1. 調査対象

本学で開催した教員免許更新講習の中から、専

門科目として設定したバレーボールを受講した 28 名。

### 2. 調査方法

更新講習終了後、受講生に対しアンケート用紙を配布した。

記入にあたっては、時間制限をせずに実施した。講習内容 4 時限のうち、4 時限目の試験を除いた 3 時限分について、それぞれの時間毎に記入できるようアンケート用紙を作成した。

また、各項目に自由記述の欄を設け、受講生の自由な意見を引き出せるよう配慮した。

回答数は、受講者 28 名のうち 28 名（有効回答数 100%）であった。

## III 結果

### 1. 受講理由

本学で教員免許更新講習を受講した理由を下記の 5 項目で質問した。なお、複数回答を可とした。

- ①自宅から近い
- ②受講科目に関心があったため
- ③現在の教育（指導）に役立つ内容だったため
- ④本学の教員と面識があったため
- ⑤その他（自由記述）

結果、① 14 名② 16 名③ 8 名④ 7 名⑤ 5 名であった。（図 1）

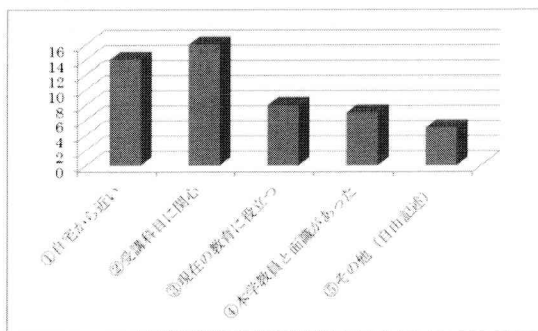


図 1 受講理由

なお、⑤その他での記述には、以下のような内容が挙げられた。

- ・友人が本学教員と面識があったため
- ・友人の紹介

- ・進路指導で複数の生徒が本学に進学していた
- ・同僚の紹介（2名）であった。

## 2. 講習内容

講習内容をそれぞれの時限ごとに下記4項目で質問した。なお、項目選択の理由を自由記述とした。

### 1) 1限目（講義）

主な内容：指導者の資質及び指導方法

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④よくなかった

結果、①17名②11名③0名④0名であった。(図2)

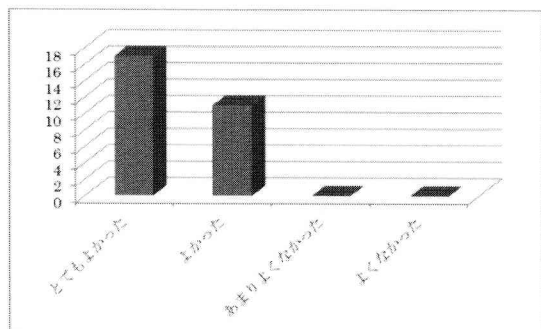


図2 講習内容（1時限講義）

①を選択した理由としては、「指導法について勉強になった」「話の内容が興味深かった」が共に最も多く7名ずつであった。次いで「今後の参考になった」「資料が参考になる」「自分の専門であるバレーボールの深さを知った」「感銘を受けた」などであった。

②を選択した理由では、「話の内容が興味深かった」が最も多く5名おり、次いで「体育の指導者としての考えを改めて考えさせられた」が2名であった。その他の意見としては、「授業のねらい等作成の際の参考となった」「指導者の在り方や指導力向上に向けて考える機会となった」「バレーボールを通じて人間教育に係る哲学が学べた」という意見があった。

### 2) 2限目（実習・実技）

主な内容：レシーブ、スパイクにおける練習方

法とその評価方法

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④よくなかった

結果、①16名②11名③1名④0名であった。(図3)

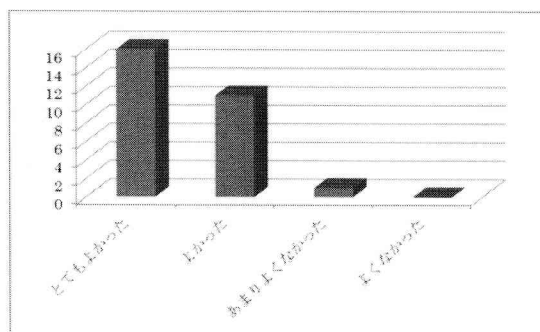


図3 講習内容（2時限実習実技）

①を選択した理由としては、「技術指導方法が分かりやすかった」が最も多く5名。次いで「現在担当している授業に参考になった」4名。以下「部活動でも授業でも活用できるものが多かった」が3名。「学生が実際に動きを見せてくれたので理解しやすかった」2名となった。その他「指導の行き詰まりが解消できた」や「実践に結びつく練習方法がとても参考になった」といった意見もあった。

②を選択した理由では、「現在担当している授業に参考になった」が最も多く4名。次いで「内容を分かりやすかった」が2名であった。その他の意見は、「バレーボールの持っている楽しさを確認できた」や「資料が豊富で参考になった」といった意見であった。また、「実技をもう少し見たかったしやりたかった」や「バレーボール初心者が多い授業を楽しませる方法も紹介してほしい」といった意見もあった。

③を選択した理由は、「実技の内容が高度すぎて中学校の授業で行うには難しい」であった。

### 3) 3限目（講義）

主な内容：スパイクスイングにおける理論

- ①とてもよかった
- ②よかった

③あまりよくなかった

④よくなかった

結果、①17名②9名③2名④0名であった。(図4)

①を選択した理由としては、「スパイクスイングに絞った内容が分かりやすかった」が最も多く5名。次いで「名称、分析について初めて知った」、「肩・肘の怪我が部活動・授業で怖いので役に立った」が共に2名であった。その他「スパイクのスイングで肩を痛めた生徒に正しく指導していればと後悔した」や「映像画面が多く説明が分かりやすかった」、「スパイクがうまく打てない生徒の指導に参考になった」、「技能習得のために技能構造を理解する必要性を感じた」、「今後の練習・指導に大いに参考になった」といった意見であった。また、「大学時代の研究室を思い出した」や「高いレベルでの技能論が参考になった」といった意見もあった。

②を選択した理由では、「資料や映像が分かりやすかった」が最も多く3名。次いで「動画を使った説明は、違いが分かりやすく理解できた」が2名であった。その他、「初めて聞く言葉が多く不安だったが、細かい技術を知ることができた」、「肩に負担のかからない打ち方が分かって良かった」、「レベルが高く中学の授業に活かすには難しいが、指導者が理論として知ることが必要」、「今後の授業に取り入れてみようと思った」という意見であった。

③を選択した理由は「専門的すぎてよく分からなかった」、「スパイクスイングの理論と構造はよく理解できたが、普段の授業に生かせるかが疑問」という意見であった。

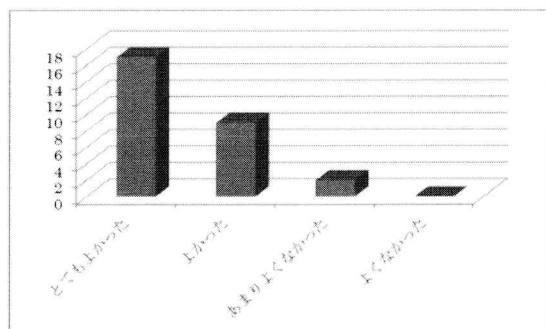


図4 講習内容 (3 時限講義)

### 3. 講習全体

今回の教員免許更新講習(専門科目バレーボール)を受講して、全体的にどのような感想を持ったかを自由回答で質問した。回答の内容は、以下の通りである。

- ・今回のような機会がないとバレーボールのことを細かく見ることはなかった。別のスポーツも取り入れてほしい。
- ・苦手な生徒が多いバレーボールを「やりたい」と言わせるには、教員の指導の工夫が必要であり、学生の明るさを見て考えさせられた。
- ・かなり高いレベルでの講義や実技だった。中学生の授業に生かせるよう工夫したい。
- ・バレーボールの専門なので、今回の講習は大変参考になった。
- ・疑問に思っていたことが理解できた。
- ・埼玉県内にここまで奥深く指導している大学があるとは知らなかった。今後の進路指導に加えてほしい。
- ・生徒の指導に役立てたい
- ・学生の実際の動きが見られて良かった。周りの人への配慮を学生がしているのに好感が持てた。
- ・あたたかい雰囲気緊張せずリラックスして受けることができた。
- ・バレーボールに興味関心がない生徒にもバレーボールの楽しさを指導できるような気がする。
- ・今回のような方法で講習を継続してほしい。
- ・現在の最先端の技術論、技術及び海外のバレーに対する考え方などを聞いてみたい
- ・暑い時期に受講生が動かずに済みよかった。
- ・全体的にかなり高度な内容だったので、初心者の授業向けには参考にならないと思った。
- ・初心者を指導する内容と競技指導の内容に分けたほうがよい。
- ・もう少し規模を大きくし、バレーボールの専門家とそれ以外の2つで展開してもらいたい。

## IV 考察

アンケートから、質問項目1の本学で受講した理由では、「受講科目に関心があった」が最も多

い結果であった。

これは、多くの教員が専門で行ってきた内容意外の担当となり、指導に当たったの知識、技能を高めたいと考えていることが推察される。「現在の教育（指導）に役立つ内容だったため」も3番目に多い回答だったことからその事が伺える。

次いで、「自宅から近いため」が多くなっており、これは、中学・高校の教員が夏休み中であっても非常に激務であり、遠方まで研修に行く時間がないため、自分の母校等より自宅に近い本学を選んだ事が推察される。

次に、「本学教員と面識があったため」が7名と回答では一番少なかったが、その他を選択した回答の記述において、友人もしくは知人からの紹介が数名あった。つまり、直接的でなくとも本学の教員が、中学・高校の教員と何らかの関わりがあることが講習先に本学を選択した要因となった事が考えられる。

質問項目2の1) 講義(1限目、指導者の資質及びその指導方法)では、「とてもよかった」が最も多く、次いで「よかった」の順であった。項目選択の理由から、講義内容が受講者にとって有益であった事が読み取れる。また、バレーボールを専門としていない指導者からも同様の意見であったことから、指導者として参考となる内容であったと思われる。

質問項目2の2) 実習実技(バレーボールのレシーブ・スパイクにおける練習方法とその評価法)では、「指導方法がわかりやすい」といった意見が多く、①とてもよかった、②よかったが大多数の意見であった。

専門科目としてバレーボールを設定した事もあり、専門的な指導法を受講内容に取り入れる必要性を感じたため、行ったことが「とてもよかった」「よかった」に多くの意見が寄せられた結果になったと考えられる。

また、本学学生をデモンストレーターとして目で見て分かるようにしたことも同様の評価につながったと思われる。

しかし、「あまりよくなかった」と回答した意見があった。その理由は「実習・実技の内容が高度すぎる」ということであった。

少数意見ではあるが、教員免許更新講習の性格上、様々な分野(高等学校や中学校等)で教員をされている方が同時に受講しているので、専門的な指導法だけでなく体育の授業としての指導法を中心にしてほしいと思っている受講者もいるであろう。

このような意見が、同様の講習を続けていけば多くなってくる事は考えられるため、今後の課題として検討していく必要性を感じた。

質問項目2の3) 講義(スパイクスイングにおける理論)では、①とてもよかった②よかったが多数意見であった。

2の2) 同様、専門的な指導を行う上で必要な知識として、スパイクスイングに焦点を絞り、行ったことが「とてもよかった」「よかった」に多数の意見が寄せられた結果となったのだと思われる。

また、学生時代は専門的に研究等行うこともできるが、教員として現場の仕事に追われその時間をつくれぬ人も多と思われる。今回の講習がきっかけとなり、その必要性を感じてもらえれば、講習を行った意義があったと考える。

しかし、ここでも③あまりよくなかったを選択した受講生の意見があった。

選択した理由は、2の2) 同様「専門的すぎる」や「授業に生かせるか疑問」という内容であった。これについても、「講習内容をどのようにしていくか」ということについて検討する必要がある、今後の課題として残された。

質問項目3(講習全体)では、自由記述とし、多くの意見が寄せられた。

受講生それぞれの視点によって言い方は違うが、大半は受講内容が良かったという内容であった。

しかし、2の2)・2の3) 同様「初心者向けの内容で行ったほしい」という意見があった。

今後、本学において教員免許更新講習を実施していくにあたり、これまでと同様の方法で実施すれば同じ意見が出ると思われる。

少数意見ではあるが、このような意見に対し対処していくことも今後の課題であろう。

## V まとめ

平成 19 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により平成 21 年 4 月 1 日から教員免許更新制が導入された。

本学では文部科学省及び埼玉県教育委員会からの依頼もあり、一昨年と本年の 2 回教員免許更新講習を実施した。

本報告では今年度（平成 23 年度）本学において設定した更新講習の中から、専門科目として実施したバレーボールを対象とし、アンケート調査を実施。その結果から今後講習を実施していくにあたり必要な資料を得ることを目的とした。

受講内容では、「よかった」が多く意見であった。しかし、少数ではあったが「内容が高度すぎる」や「授業の参考となる内容を教えてほしい」との要望があった。

今後、本学で教員免許更新講習を行っていく上で、「講習内容の検討を行う」か、あるいは受講者募集の段階で「受講対象者を明確にする」といった事が必要となると考えられる。

また、「講習内容の検討」を行う上においても、専門科目においては、「専門性を強調し、高度の内容を実施していく」のか、「現場の授業での参考となる内容を中心とする」のかを考える必要がある。

その「現場の授業に参考となる内容」の講習を行うにしても、「中学校」が対象なのか「高等学校」が対象なのかといった事も検討していく必要があると考えられる。

本報告では、以上の点を検討する必要性を示唆する資料となった。

### 【参考文献】

- 1) 文部科学省ホームページ：教員免許更新講習